

リンゴ・モモ病虫害の省力共通防除技術 に対する意識調査

福島県農業総合センター 企画経営部経営・農作業科

1 部門名

農業経営 - 農業経営 - 病虫害防除、作業技術、農業組織

2 担当者

引地力男・藤澤弥榮・永山宏一

3 要旨

果樹の薬剤散布ではスピードスプレーヤ(以下「SS」という。)が使用されるため、リンゴ及びモモなどの樹種複合地域においては、農薬散布時のドリフト防止が重要な課題となっている。

そこで、樹種相互に使用可能で各種病害に有効な省力共通防除技術の開発方向の参考とするため、JA果樹部会役員の省力共通防除技術に対する意向を調査・解析した。

- (1) 福島市にある農業協同組合のリンゴ・モモ専門部会役員の8割以上はリンゴとモモを栽培している樹種複合経営であった。
- (2) 「リンゴとモモの病虫害を共通防除する体系」について、最も重要視される因子は「10a当たりの薬剤費」、次いで「1年間の薬剤防除回数」であり、散布時期を把握する因子(予察防除か定期防除か)はあまり重要視されていない(図1)。
- (3) 「10a当たりの薬剤費」は、「2割高」より「現状程度」が高く評価されている。「1年間の薬剤防除回数」は、「現状程度」より「2割減」が高く評価されている。「予察防除か定期防除か」はあまり差がない(図2)。
- (4) ドリフト防止技術の評価は、「手散布」の平均値が最も高かったが、これはSSによらない慣行基準技術と見ることができ、次いで「隣接する作物にも登録のある薬剤使用」であることから、仮にドリフトしても問題とならない方法が評価される(図3)。
- (5) 果樹の病虫害防除において、参考としている情報は「JA果樹病虫害防除暦」で、次いで「JA病虫害防除(発生予察)情報」がであり、JAが発行する資料を主な情報源としている(図4)。
- (6) これらのことから、「リンゴ・モモ病虫害の省力共通防除技術」等の新技术を普及する手段は、「JA果樹病虫害防除暦」が有効である。なお、「JA果樹病虫害防除暦」は「福島県農作物病虫害防除指針」を基に作成している。

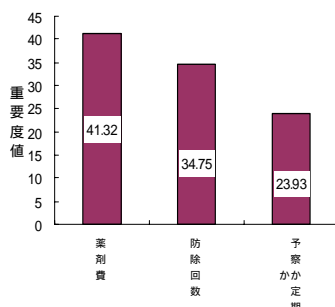


図1 コンジョイント分析による重要度

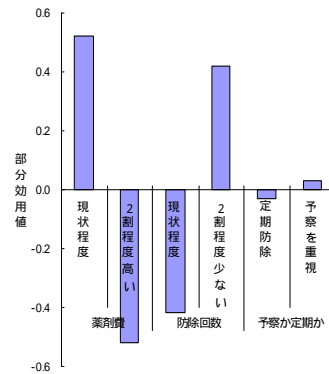


図2 コンジョイント分析による部分効用

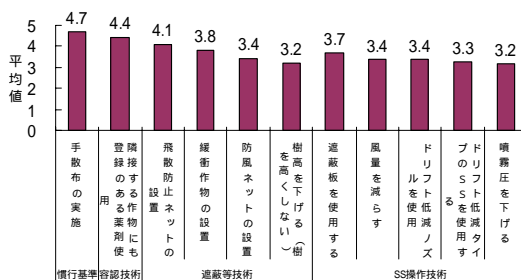


図3 ドリフト防止技術の評価

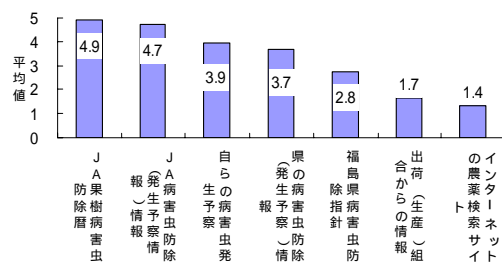


図4 果樹病虫害防除に参考とする情報

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)